

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 第1回社会教育委員会議
開 催 日 時	令和6年7月17日(水) 午後 7時00分から 午後 9時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階304・305会議室
出席委員(者)氏名	土倉知子委員、峯健二委員、西澤利子委員、郭育子委員、 福田稔之委員、和田津智郎委員、石井亮英委員、 強矢奈保子委員、米田清美委員、能登克己委員、鈴木博委員、 高田明充委員、富田泰行委員、渡邊勝巳委員
欠席委員(者)氏名	
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長：岩上勉 主幹：山崎功二 主査：川島和也 主事：笹原康友 中央公民館 館長：鈴木洋
会議次第と会議の公開又は非公開の別	《会議次第》 1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 議事 (1) 令和5年度生涯学習(社会教育)事業実績について (2) 令和6年度研究テーマについて 5 その他 6 閉会 《公開又は非公開の別》 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第 令和6年度第1回社会教育委員会議資料 令和6年度公民館要覧「さつき咲く」

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	峯健二委員、和田津智郎委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 自己紹介 会議録署名委員の指名について、峯委員、和田委員。</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 令和5年度生涯学習(社会教育)事業実績について</p> <p>高田委員長 事務局 高田委員長 峯委員 事務局 峯委員 事務局 峯委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より説明を求める。 資料に基づき説明。 質問、意見はあるか。 成人式の参加率72.9%、対象者774名参加となっているが、その年に成人を迎える方に通知をするのか。 11月頃に開催案内を送る。今年度も既に準備を進めており、多くの方に参加していただくため、開催日などはこのタイミングで周知を図っている。 吉川市として72.9%という参加率は高い方か。 成人式の参加率について、令和4年度が71.6%、令和3年度が67.3%、令和2年度が62.8%、令和元年度が62.1%であり、直近の5年と比較しても令和5年度は多くの方に参加いただいたと考えている。 イベントで参加率が6割から7割というのは高い方と理解してよいか。 一般的なイベントの参加率の指標を持ち合わせていないので判断しかねるが、吉川市の成人式で言えば、過去と比べて参加率は向上している。実行委員形式で実施しており、成人となる当事者自身が運営に関わっていることや、動き出しを早くすることで参加率は向上していると考えている。 なぜ質問したかという、最近は色々なイベントをやっても参加率というか、参加者が年々少なくなっている。学校を卒業して最初にやるイベントが成人式なので、

事務局	<p>そのタイミングでイベントに参加する意識が高まると、その後のイベントへの参加意欲に繋がるように感じるので、参加率が高まる工夫を是非お願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人として社会参加の一步を踏み出すということで、開催にあたり当事者が主体的に準備に関わる形をとっている。そのような関わり方が発展し、その後に繋がっていくと良いと思う。また実行委員の方達だけでなく、当日の参加者に対してどう伝えていくかという部分は考えていきたい。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護担当から説明があった校歌について、ほかの学校ではどのような対応をしているか。美南小学校はまだ新しいが、150年後の方たちに残していくということを考えてときに、資料をどう残していくかなど、今から準備をしているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は学校資料について考える良い機会だったと捉えている。文化財保護と市史編纂を所管しているが、これまで学校にある資料にはアプローチできていなかった。福田委員のおっしゃるとおり、現在の資料も150年たてば貴重な文化財になる。例えば、学校の資料を寄託という形で教育委員会が預からせてもらうなど、校長先生とも相談しながら、学校資料の保存について考えていく契機となったと思う。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に良い機会だと思う。先生方は本当に忙しく、子どもの教育が一番なので、行政で支援できると良い。今だったらデータで保存することもできる。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌を文化財として残すことは良い取り組みだったと思う。150年前に開校した学校の校歌と新しい学校の校歌では内容に違いがあり、制定された時代背景を反映して、どういう教育をしようとしていたかが読み取れるだろう。古い校歌と新しい校歌を比較してみると良い資料になると思う。また、各学校の教育目標もそれぞれの時代に作られているが、教育目標は子どもの教育に活用されるものであり、時代ごとに変遷があって、集積すると良い資料になると思う。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川小学校の校歌は難しく、いまの児童は内容を理解していないまま歌っている。せっかくなので、現代的に訳してみても良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌は制定する義務がなく、なぜ校歌が作られたか、関係資料が残されていれば読み取ることができるが、資料が残されていない。例えば、吉川小学校の校歌の歌詞の中に「庭の教えを守りつつ」とあるが、これはガーデンの庭ではなく、家庭を意味している。こういったことを先生が説明しないと、子ども達は分からない。そのため、私たちが調査をしたときに、現代語訳を作り、学校長とPTA会長にお渡しし、活用してほしいとお願いをさせていただいた。
土倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・旭小学校は、吉川小学校、三輪野江小学校と並んで最も古い学校の1つだが、学校により歴史が違っていることが調べてもらって分かった。旭小学校は火災で資料を消失した経緯があり、残しておきたかったものが残っていない状況だったが、生涯学習課が調べてくれて、分かったことが沢山あった。市内の小学校それぞれに特色があるので、行政とも協力し、大事なものは残していけたら良いと思う。
鈴木副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校には色々な書類があって保存期間が決まっている。その中で学校沿革史という

米田委員	<p>ものがあり、これは永久保存となっている。PTAが周年行事で冊子を作ることがあるが、これも良い資料になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川小学校の150周年記念誌をもらったが、校歌のことや学校の成り立ちなども詳しく載っており、資料として良いものだと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが吉川小学校の150周年記念誌をもらったが、丁寧に作られており、貴重な資料だと思っている。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財愛護活動について、吉川市出身の富山栄市郎氏が創業した(株)タカラトミーが100周年を迎えたことや、(株)タカラトミーの玩具とJAXAの月面着陸の関わりについて展示で伝えるなど、アンテナを高くして情報を集めており、また、玩具の実物も展示されていた。本当に素晴らしかったと思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の方はそのような情報を知らないのではないか。吉川市が自慢できるものとして広く展開しても良いと思う。
土倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館について、旭小学校は市立図書館まで遠く、旭地区センターも遠いため、子ども達が本に親しむ機会の確保が難しい。学校図書室では、自分たちで本を入れ替え、子ども達が本に親しめる環境作りをしているが、移動図書館のように本を運んできてもらうことが可能になれば、子ども達が新たな本に親しむことができる。ICTが先行しているが、やはり本はICTと同じくらい大切である。子ども達の読書の幅を広げるという意味も含め、今すぐではないがそのような事業も検討いただけるとありがたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見をいただいた。移動図書館ではないが、旭地区センター図書室にない本でも、市立図書館や別の図書室に蔵書があれば、配本するという事はやっている。旭地区センターに行くこと自体が難しいという部分は課題として受け止めた。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館等指定管理で250,902千円となっているが、これは図書購入のための費用ということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民交流センターおあしすの維持管理などを含めた事業費となっている。市民交流センターおあしす、市立図書館・図書室、視聴覚ライブラリーについては、指定管理という方法により、民間事業者のノウハウを活用して管理をしている。おあしすは吉川市の中核的な施設であり、施設規模も大きいため、一定の事業費を要するものである。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会で図書館が欲しいという意見が出るが、維持管理していくことは大変であるということフィードバックしていきたい。
高田委員長	<p>(2) 令和6年度研究テーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき説明。

高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見、質問あるか。 ・自治会も大変な部分があつて、市民参加推進課も苦しい立場だと伺っているが、生涯学習課単独でなく、市民参加推進課などと協力しながら広報活動することを考えていく必要があると感じている。また、商工課とタイアップして、駅の中で告知できないかとい考えもある。あらゆる可能性を追求していくと切り口が見えてくるように思う。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は限られたデータだと思うが、広報とホームページで知ったという回答が少ないと感じる。広報で知るのであるかと思っていたが、実際にはそうではないとなると、広報の在り方に課題があるのではないか。掲載している情報量に対し、ページ数が少ないということもあるだろう。折り込みチラシは効果があると思うので、広報と一緒に配布するチラシを別途作ったら良いのではないか。
強矢委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にある「C 4 t h」とはどういったものか。 ・学校で導入しているメール配信システムである。教育委員会から保護者あてに直接メールを送ることができるようになっている。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報について、茶道の関係で活動する人が減ってきたことから、初めて広報で募集をしたところ、5人の応募があつた。広報の周知効果に改めて感心した。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・美術協会でも7月の広報に会員の募集を出したら、2名の申込があつた。見ている人は見ているということだろう。 ・市役所、中央公民館、おあしすのホームページを見たが、内容がわかりにくい。欲しい情報になかなか辿り着けない。ホームページは常に更新が必要で、誰もが見やすい状態になっているのが理想だが、市ではどこがホームページを管理しているのか。
事務局 峯委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・政策室の所管であるが、掲載する情報の更新自体は担当課で行っている。 ・政策室としては現在のホームページで良いという考えか。 ・社会教育委員会議なので、提言は教育長に対してお渡しいただくことになるが、そういうご意見も踏まえて提言をまとめていただければと思う。
高田委員長 峯委員 渡邊委員 強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私もホームページを見るが、わかりにくいとは思ふ。 ・引き出したい情報が索引になっていて、ダイレクトに入れると良い。 ・一覧というより、検索する機能があると良い。 ・子育てネットワークでは「よしよしネット」というサイトを作っている。子どもがいるママがメインになって、同じ立場の人が欲しい情報を集めて掲載している。情報が更新されないと見られなくなってしまったため、ホームページを作る難しさを感じている。子育てネットワークでは公式LINEも使っているが、市ではどうか。
事務局 米田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市公式LINEは今年度から導入予定と伺っている。 ・埼玉県の公式LINEは、登録しておくでプッシュ型で情報が届くため、便利だと感じる。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市公式LINEの導入時期は明確に把握していないが、これから周知するとなると、広がっていくまで一定の時間が必要だとは思う。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援センターに来る若いママ達は、広報を見て知ったという方は少ない。よしよしネットやインスタなど、スマホで情報を得ている方が多い。
米田委員	<ul style="list-style-type: none"> SNSを上手く活用することは必要だろう。
和田委員	<ul style="list-style-type: none"> 広報、ホームページなど色々な手段があるが、我々の仲間だと、広報とチラシが最も情報が届きやすい。友人・知人からとあるが、発信する側は広報で情報を見たという場合が多い。ホームページと広報の両方でやるのが大事だろう。ホームページだと、パソコン用とスマホ用があるが、パソコンだと一覧性があるって見やすい。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代の方では、皆さんスマホで見るという意見があり、よしよしネットについてはパソコン用で作ったものをスマホ用に変更した。
和田委員	<ul style="list-style-type: none"> パソコンやスマホを使いこなせない人もいる。両方で対応することが大事だと思う。
富田委員	<ul style="list-style-type: none"> このテーマを推した理由として、ホームページが分かりにくいという思いがあった。この資料は政策室にも共有していただければと思う。また、可能であれば、政策室の考えも聞いてみたい。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> 今回のテーマの材料とするため、広報やホームページを所管する政策室が、どういう考えで情報発信しているか、この会議で聞いてみたいという思いもある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回のテーマに関して、ホームページは手段の1つとして捉えていただきながら、皆様が普段の活動で、人集めなどで苦労されている中、この会議で議論されたことが、皆様の活動に還元できるようなまとめ方ができると良いと考えている。ホームページに関する意見を否定するものではないが、そこに集中しすぎるとテーマに対して視野が狭くなってしまいますので、ホームページのこともありながら、ほかにどういった手段が有効かということも含めてご意見が頂けると参考になる。
峯委員	<ul style="list-style-type: none"> ホームページについて、どういった考えをもって情報発信しているか、参考意見として聞いてみて、その考えを踏まえて、やはり広報やホームページは必要か、または違った方向で議論が発展していくかということもあるだろう。テーマについて考えるうえで、現在の情報発信について知ることは必要だと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会では、X（旧Twitter）という媒体を使っている。SNSでは簡潔にまとめて発信し、ホームページのリンクを貼りつけることで、詳しい情報にアクセスできるようにしている。ホームページから情報を探しにくいというご意見があるが、教育委員会ではそのような運用方法で対応している。ホームページのありようを変えるという意見も大事だが、効果的なお知らせの仕方という面では、複数のツールを組み合わせると上手くいくということもあると思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> 色々と意見を伺って、資料13ページの例題を踏まえ、ターゲットを見据えてどういう方法が良いのかという議論をするのが大事だと思う。
西澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は歳なので、ホームページは構えてしまい、広報であれば気軽に見られる。両方

能登委員	<p>やるのは良いが、私くらいの年齢だと広報が手に取りやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の違いはあると思う。様々なメディアを使って発信することが大事だと思う。質問だが、資料の中で、演劇ではC4thが52人、21.0%だが、生音コンサートではC4thが2.2%となっている。この違いについて、どのような要因が考えられるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の演劇プロジェクトは小中学生向けの無料公演であったため、小中学生やその保護者に向けたツールであるC4thが有効であった。生音コンサートは有料公演であり、小中学生やその保護者の観覧自体が少なかったことが考えられる。事業の性質によって、活用したツールの波及効果に違いがあったものと考えている。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> X(旧Twitter)にリンクを貼って発信しているという説明あったが、X(旧Twitter)で発信した事業と、そうでない事業がある。事業担当者から政策室に依頼をして発信しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> X(旧Twitter)については、教育委員会でもアカウントを持っており、事業担当者が意識して活用しているかという部分で違いが出ている。
高田委員長 石井委員	<ul style="list-style-type: none"> 指名して申し訳ないが、石井委員はPTAの立場で何か意見などないか。 色々話を聞いて、方法を絞ることは難しいと感じている。紙も大事で、ホームページやネットも大事である。様々な方法がある中で、募集や告知は1回で参加者が集まるものではなく、何度も伝えていく地道な作業が必要で、効果的なものがポツと出てくるものでもない。色々な方法を出し合うことのほか、市に何かを言って変えてもらうというより、委員の方がそれぞれの組織でやっていることで、良いものを情報交換する。その方がこの会議が良いものになるのではないかと思う。
鈴木副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供には、いろいろな方法があって良い。70歳以上なら広報から、若者は違う方法で情報を得ている。年代によって違うので、絞る必要はない。それぞれの方法について、市民が見やすい、読んでもらえる方法を検討してもらうということに尽きる。 具体的なテーマを見させてもらうと、行政と個人を結ぶ方法は色々あるが、詳しく見ていくと、何で情報を得たかという問いに、友人・知人と回答された方が多い。友人・知人というのが大事なのだと理解した。ここを上手くできれば、市からの情報が繋がっていく。大事なポイントになってくると感じた。具体的なテーマのなかに、地域活動というワードもあるが、市民の間でつながって、個人に渡っていくような形が取れると、子ども達や保護者も地域の活動に参加するようになるのではないか。そう考えると核になってくるのは人だろう。
土倉委員	<ul style="list-style-type: none"> 旭地区の自治会に毎月参加している。回覧板を地区で回しており、学校だよりも一緒に回してもらっているが、学校だよりを見た方から声をかけてもらうことがある。自分の手元に届くと読んでいただけるので、回覧板は有効だと感じた。回覧板

<p>西澤委員</p>	<p>で気になったチラシを手元に残してもらうことにより、口コミで広がっていくこともあると思う。自治会の協力が必要となるが、回覧板というのは有効だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川小学校の学校だよりが回覧板で回ってくるが、とても良いことが書いてあるのでよく見ている。
<p>峯委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口コミに関しては、「学校から」、地域だと「自治会から」、さらに所属する「活動団体から」と様々な情報伝達の流れがあり、源流のところに的確に情報が伝われば、自然と情報が流れていく気はする。
<p>強矢委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木副委員長のご意見について、友人・知人がポイントになるというのは本当にそのとおりだと思う。子育て支援センターでも、場所自体は知っているが、一人では行く勇気がないから、一緒に行こうと言ってくれる人がいて来られたという人が多い。誰かに情報が伝わり、その人が誘ってくれたらイベントに行くという人もいるのかなと思う。
<p>郭委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様のご意見を伺って、資料13ページの個別テーマの例3については、私が普段関わる人たちに関係していて、このカテゴリーごとにまた次回、議論を深めていくのが良いのかなと思う。また、中央公民館の味噌づくり講座について、実施内容が日本文化に触れるとなっているが、外国人の参加はあったか。
<p>事務局 郭委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の属性について手元に資料がなく、この場でお答えできない。 ・外国人に関しては、市の広報はほとんど見られていない状況なので、ホームページやSNSなど、他のメディアも活用していただくと良いと思う。
<p>高田委員長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見が活発に出た。事務局の方で最後まとめていただければと思う。 ・様々なご意見をいただき感謝する。ツール自体を根本的に変えていくとなると、すぐに対応することは難しいと思う。既存のツールを活用しながら、いかに事業を知ってもらえるか、関心をもっていただくかというところを、この会議でまとめられると良いと考えている。郭委員や石井委員からもご意見があったように、各団体での良い取り組みについて情報共有していただきながら、資料13ページの個別テーマに沿って、また次回議論いただくということで進められたらと思う。 <p>(異議なし)</p>
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以上で議事を終了する。進行を事務局へお返すする。 <p>5 その他</p> <p>埼玉葛郡市社会教育振興会、埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会を説明。 今回は10月、3回目は2月頃を見込んでいます。</p> <p>6 閉会</p> <p>鈴木副委員長挨拶</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 6 年 8 月 2 1 日

署名委員 和田 津智郎

署名委員 峯 健二